

ペニばなカレンダー

7月1日～7月31日 食で楽しむ紅花スタンプラリー

【会場】山形市ホテル協会加盟ホテル
山形まるごと館 紅の蔵・水の町屋 七日町御殿樓

7月1日～7月31日 やまがたの花 ー紅花検定ー

【会場】山形市ホテル協会加盟ホテル
山形まるごと館 紅の蔵・水の町屋 七日町御殿樓

7月3日 山形紅花まつりPR 紅花プレゼント

【会場】山形まるごと館 紅の蔵 (11:00～)

7月9日・10日 第26回山形紅花まつり

【会場】山形市高瀬地区

7月上旬 県内の紅花まつり

【会場】天童市、寒河江市、東根市、河北町、白鷹町

7月上旬 紅花 街なか展示

【会場】街なか(山形市の中心市街地)

7月30日 紅花すり染め体験会

【会場】山形まなび館
【申し込み先】山形まるごと館 紅の蔵
TEL 023-679-5101



お問い合わせ

山形市商工観光部
山形まるごと推進課
TEL 023-641-1212 内線408



山形市 街なか回遊

がんばろう!
東北

ペニばな街道
キャンペーン

平成23年7月1日(金)～31日(日)



江戸時代から商業が盛んだった七日町と十日町。定期的に市が開かれ活発に商取引が行われていました。中でも繁盛したのは紅花市。この中心市街地を舞台に紅花と紅花の食を発信します。

やまがたのペニばなものがたり

江戸時代、質・量ともに日本一だった山形の紅花ー。

当時、紅花を加工した紅餅は紅花商人によって最上川を酒田まで下り、そこから北前船で越前敦賀を経て京まで運ばれ、西陣織などの染料として、また化粧品原料として大量に消費されていました。

紅花商人は、帰り荷として呉服や仏像、雛人形などを上方から持ち帰り、各地に広く売りました。行きで儲かり帰りでも儲かるこの商売は「ノコギリ商売」と呼ばれていたそうです。現在でも、山形市をはじめ最上川流域の市町村には、紅花商人たちによって京から持ち帰られた江戸時代の雛人形(享保雛、古今雛など)がたくさん残っており「山形雛のみち」など雛祭りが盛んに行われています。

一方、紅花から採れる口紅・頬紅用の紅は生花の0.3%程度と少なく、江戸時代には「紅一匁金一匁(べにいちもんめ・きんいちもんめ)」と言われるほどで、ごく一部の裕福な人々しか使えない高価なものでした。

江戸時代後期に最盛期を迎えた山形の紅花は、その後輸入紅花や化学染料の台頭により、明治時代はじめにほぼ途絶えてしまいました。

戦後、偶然にある農家の納屋から昔の種子が見つかりそれが発芽したことから、その後こころある人々の手で山形の紅花栽培が復興されました。

最近では、化粧品や染物の原料として利用されるほか、アンチエイジング(若返り)の作用があるといわれ健康食材として注目され始めています。

ペニばなの商品

以前は、口紅や染料として使われてきた紅花。最近では肌の活性化や顔のシミやシワの原因をつくる活性酸素を取り除く作用が認められ女性の注目を集めています。紅花を煎じたお茶や紅花若菜の料理、酒類に使われるなど新たな用途にも活用されています。

一料理一



マクロビオティックや薬膳料理の材料として紅花が目目されています。花びらはお料理のトッピングとして色合いが良く、紅花若菜はパスタやサラダなどのイタリアンから和食の食材として幅広く使用されています。

一スイーツ一



ゼリーやブランジェ、パウンドケーキ、パンやお団子など、さまざまなスイーツに花びらや若菜を混ぜ込み、色素としてだけではなく使用されています。

一酒類一



紅花の花弁から抽出した天然エキスをブレンドした発泡清酒はお米の優しい味わいの中に、柔らかな甘酸っぱさが口中に広がります。また、ホワイトリカーに乾燥紅花を漬込んだ「紅花酒」は女性特有の冷え性にも効果があるといわれています。

一口紅一



「紅餅」を刻み梅酢を加え、絹布を敷いた紅舟に流し込み濾す、という作業を何回も繰り返し、貴重な紅花で作られた口紅は深いくれないの色あいで玉虫色の光沢を放っています。

一紅花染め一



紅花には血行を促進させる作用があり、紅花で染めた布を肌に巻くことで体が温まるといわれ、かつては腰巻や足袋などを染めて着用していました。

一紅花茶一



紅花茶は「女性に優しい健康茶」として有名です。ビタミンEによるアンチエイジング(若返り)や「婦人病の予防」「冷え性の改善」などにも作用するといわれています。

